

しかはま自然観察会	代表責任者 古高 利男
	☎270-1132 我孫子市湖北台2-14-7
『人も 自然も みんなともだち !』No.13	☎090-7275-9890 2015, 12, 5

第13回活動「冬の野鳥観察、鳥クラフト」

- ・・・どんな野鳥がきているだろうか？
- ・・・鳥のクラフトって？

1, 日 時：2015年12月5（土）14：00～16：00

2, 場 所：都市農業公園、新芝川

3, 参加者：8家族 内訳 大人 7
小学生 10
合 計 17 スタッフ2 総計19

4, 活動の様子

○ 卵が着かない？

サケの卵4000粒が、着かない。

予約時間の12時を過ぎても、着かない。千寿小や宮城保育園、その他にも卵を受け取りに来ているたくさんの人たちは、「いらいら」しながらひたすら待ちました。

クロネコヤマトの鹿浜営業所に、何度も電話をしても、「そのような荷物はあつかっていない」ということでした。

もう限界！と15時に、「日を改め」宣言をだしました。

月曜日に確認したところ、荷物は着いていたのですが、住所が間違っていたとのことです。しかし、届ける場所が見つからなければ、何故、受取人に電話をかけなかったのでしょうか？そのための電話番号なのではないでしょうか。まして、時間指定の荷物です。連絡もせず、持ち帰ったことが、大きな混乱をもたらしました。

ドライバーさん、しっかり頼みますよ！

月曜日に、久慈川漁業協同組合に連絡し、水曜日に、再度元気な卵を送ってもらいました。それをスタッフのひとりである梅川さんと二人で、16ヶ所を車で配達しました。たっぷり2時間半かかり、大変な苦労でした。

○ バードウォッチング

都市農業公園に集まっていた保護者と子どもたちで、新芝川へ冬の野鳥を観察にいかけてくれました。

アオサギ、オオバン、コガモ、カラス、などを観察したということでした。

毎年、少なくなっているようですね。特に、今年は、暖冬の影響があるのかもしれない。

○ 会議室へ

1時間遅れで、会議室へ向かいました。

ここで、鳥のクラフトをする予定です。

始めに、コウノトリのお面をつくりました。山口さんが印刷してきたコウノトリを、折ながら形にしていきます。折り紙は、折っていくと、平面が立体になっていくから不思議ですね。バンドをつけて頭に被ると完成です。

次に、「パタパタ鳥」をつくりました。

これは、我孫子野鳥の会がJBF（ジャパンバードフェスティバル）に、子ども向けのクラフトとして出しているものです。私がおその会員ですので、のらえもんに利用させてもらいました。

カワセミやミサゴなどのカラープリントをハサミで切り取り、ストローで羽をパタパタさせて飛んでいるように見せるものです。

5、親と子の、いきいき感想

「つるのおめん つくってみたら むずかしい」

今日は、つるのおめんをつくって、たのしかったです。

あと、パタパタとりも、たのしかったです。

鹿浜五色桜小3年

あおさがが、よく見えまして。

きれいでした。

鹿浜第一小2年

ストローで作ったのが、おもしろかったです。

鹿浜第一小5年

ストローなど、身近なもので楽しくつくれてよかったです。

家でもやってみます。

母

「とりづくり とりをつくった たのしかった」

とりづくりをして、たのしかったです。

北鹿浜小2年

こうのとりさんを、つくるのがたのしかったです。

鹿浜五色桜小2年

きょうは、しゃけのたまごがもらえませんでした。

ちょうのクラフトがおもしろかったです。

栗原北小1年

「サケ卵 届かなかった 残念だ」

今日の活動で、印象に残ったことは、サケの卵が届かなかったことです。楽しみにしてたのに、届かなかったので、残念です。

第七中1年

「鳥達が 川に集まり 日にあたる」

バードウォッチングは、とても鳥がいて、よかったです。鳥のクラフトでは、色々な鳥の工作ができて、楽しかったです。

鹿浜第一小5年

「鳥達が 川で遊ぶよ 小春日より」

アオサギが、背をのぼして立っている姿がきれいでした。ペーパークラフト、とっても楽しかったです。 母

* さけの太平洋側の南限は？

これまでは、千葉県横芝町の栗山川とされてきました。が、さらにその南の睦沢町の一宮川でも確認されたということです。

そのニュースを掲載します。

睦沢の川 サケ遡上確認

南限より南 稚魚放流する町民ら



サケの遡上が確認された瑞沢川の近くで、確保したサケを見せる幸治昌秀さん(右)と小高利雄さん(睦沢町)

睦沢町の瑞沢川(二宮川の支流)でたびたび、サケの遡上が確認されている。25日には息絶えた雌1匹の魚体も確保された。瑞沢川では2011年から一宮川に鮭を放流する会が中心となって、こども園の園児や

小中学生がサケの稚魚の放流をしている。サケの遡上が確認されたのは、土睦小近くの稚魚放流場所から200メートルほど下流。一宮川河口から約8キロで、川幅は5メートルほどの浅場。元同小教頭の小高利雄さん(61)が24日に3匹

が泳いだり、砂をかき分けたりしている様子を確認。25日になって、流れ着いた雌(全長73センチ)を確保した。27日午後2時過ぎにも同じ場所で、1匹が泳いでいるのを確認した。コイなどとは明らかに違う白色の背の大型魚だった。

サケの遡上の南限は、横芝光町の栗山川とされている。これまでも一宮川では遡上が目撃されていたが、同会として魚体を確認できたのは初。放流したものかどうかは分からないが、幸治昌秀会長(72)は「サケが泳いでいる姿を見て感無量。これからも一宮川の環境整備を続けていきたい」と話した。

* もう一つ、サケの回帰率についての記事が載っていました。
回帰率の計算と合わせて参考にしてください。

サクラマスの回帰率

1匹が、3000個の卵を産んだとき

条件	回帰率	川に帰ってくるサケ
自然放流	0, 001	$3000 \times 0, 001 = 3$
自然放流	0, 12	$3000 \times 0, 12 = 36$
特殊なエサをたべさせたとき DHA (ドコサヘキサエン酸)	0, 33	$3000 \times 0, 33 = 99$
特殊なエサをたべさせたとき DHA (ドコサヘキサエン酸)	0, 55	$3000 \times 0, 55 = 165$

サケ DHA食べて回帰率アップ

川をさかのぼるサクラマスの妹
尾優二さん撮影、北海道大提供



高級魚として知られるサケの一種サクラマスの稚魚に、ドコサヘキサエン酸(DHA)を混ぜたエサを与えて故郷の川に帰ってくる確率を高めることに、北海道大などが成功した。3、4年かけて実用化し、漁獲量の増加につなげる。

食べさせたのは、マウスの実験で記憶力を高める効果があったDHAや、αリノレン酸、エイコサペンタエン酸(EPA)。青魚やエゴマに多く含まれる。

上田宏特任教授(魚類生理学)らは2013年5月、これらを含む特殊なエサを1歳半の稚魚1500匹に6日間かけて

北大など研究 漁獲増に期待

与えた後、岩手県野田村の安家川河口から数百メートル上流で放流。翌年8、10月に識別用のタグを腹に埋め込んだサクラマスが5匹、帰ってきた。14年2月の実験でも、1274匹中の7匹が今年9月までに姿を見せた。

県が安家川で1996〜04年に調べたサクラマスの回帰率は、年によって変動が大きい。0・001〜0・12%だった。13年に放流した稚魚は0・33%、14年では0・55%が帰ってきているため、確率は少なくとも3倍以上という。

特殊なエサを食べさせた稚魚の脳を調べると、おおいの記憶に関係するたんぱく質の量が、ふつうの稚魚の約3倍になっていた。上田さんは「放流されてから河口に下りるまでの間に川のおおいを覚える能力が高まったのだろう」と話す。

DHAやEPAが入ったサプリメントは、「頭がよくなる」などのうたい文句で売られている。ただ、上田さんは「実験したのは『刷り込み』と言われる特殊な記憶。人間の学習とは違う」と釘を刺している。

(小宮山亮磨)